

小山城？

松下 恵美子

小山町を源流域とする村田川について調べていると、「小山城」というワードが目に入ってきた。JR外房線土気駅周辺には土気城、大椎城があったと言われていてその城跡跡はある。しかし、毎日のように通っている小山町に城があったという話は聞いたことがなかったので、関連するサイトや図書館で調べてみた。大椎城については「平安時代末期上総介忠常が築城後、その子孫の千葉常兼が修復して居館したとつたえられている」(※1)といった記録がいくつも残っている。さらに「大椎城周辺にはこの城の支城と考えられているいくつもの城砦がある。八幡砦址、向砦址、板倉砦址、金剛地砦址などがそれである。(中略)村田川に沿って西の方から攻め込んできた敵を城兵たちがこの谷あいには追い込んでせん滅したのではあるまいか」(※2)と、土気城と大椎城以外の城の記録もあったが、小山城の存在の有無についての記載は見当たらなかった。(※1,2ともに『房総の古城址めぐり 上巻/安房・上総』府馬清著 有峰書店より)

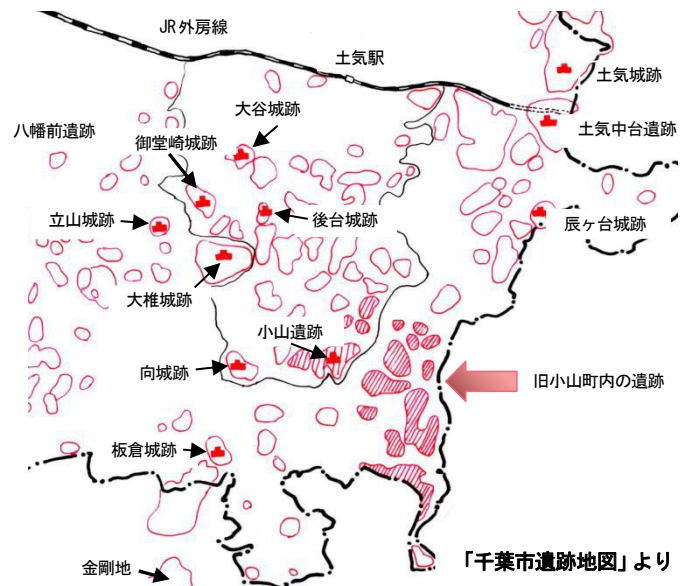
小山城があったとされる土地の地主さんに話を聞いたが、「城があったなんて聞いたことない」という。地元の方々に聞いてもご存じないと言うし、そんな資料も見ることがないとのこと。一方、小山町の隣の板倉町に存在していたという板倉砦や向砦についてその地元の方に話を聞いたところ、「これらの城は大椎城を守るための見張りをおおせつかつていた砦だったと代々言い伝えがある」という返事が返ってきた。

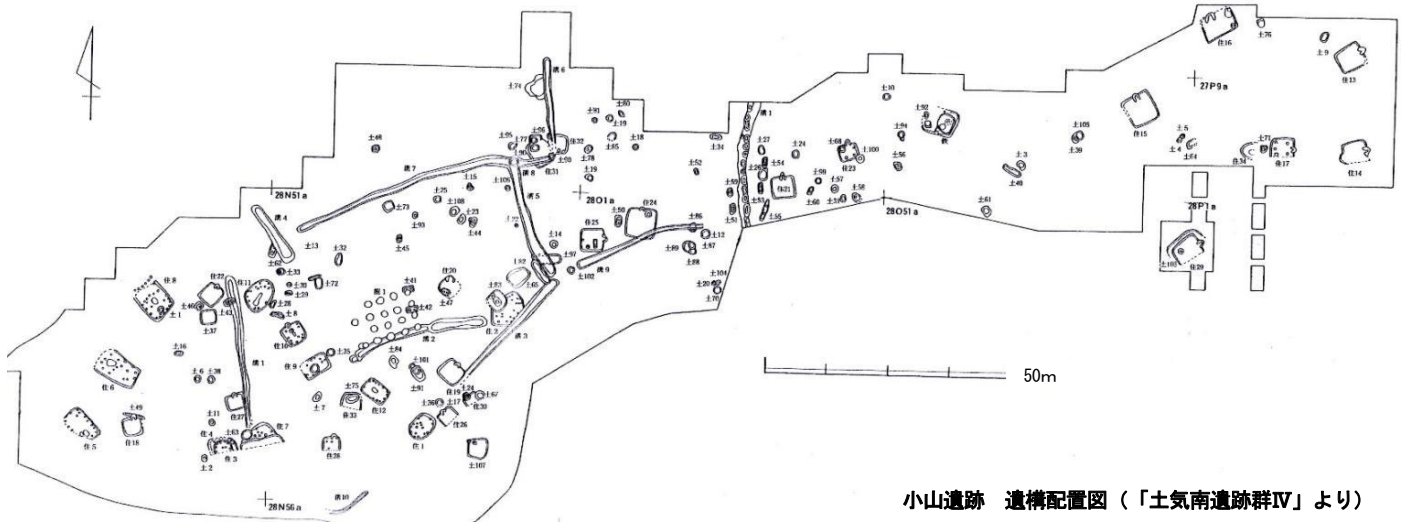
後日、小山町の歴史に詳しい地元の方から「安土桃山時代前後からの小山の資料を市で現代語訳した本が図書館にあるはずだ」と伺い図書館に行った。それは『千葉市史資料編6 中世』という本で千葉市内の各村町に残る古文書を現代語訳してまとめたものだった。小山村は他の町村よりページがあり、多くの貴重な資料が長い間大切に保存されていたことを意味していた。資料は、1600年以降に小山村が旗本建部昌

興の領土となり、どれだけ収穫し納めたか、近隣の村々とどう関わっていたのかなど村の変遷の記録であったが、城についての記載はなかった。だが「小山村の歴史」というページに、先土器時代の遺跡、縄文時代の集落跡、奈良～平安時代の遺跡があったという記載とともに、「中世に小山城があった」との1文を見つけた。

やはり、小山城は存在していた？

図書館にある様々な本を探したが、やはり小山城について書かれたものはなかった。しかし『千葉市の戦国時代城館跡』(千葉市郷土博物館発行)の千葉市城址跡マップの中に小さく小山城と書かれているのを見つけた。ただ、地元の方、特に地主さんもお存知ないのに城があったというのはおかしい！と思い、その根拠が知りたく、本の版元である千葉市郷土博物館の千葉市教育委員会文化財課に電話すると、「小山遺跡群」(下図参照)という資料を送ってくださった。土気駅南側は、あすみが丘ニュータウンや昭和の森、そしてゴルフ場などの大規模開発前に大がかりな遺跡発掘調査が行われている。送っていただいた資料は発掘調査を詳細にまとめたものだった。しかし、その調査結果は素人が読み解くには専門知識が足らぬため、先の文化財課の方に解説をいただこうとアポをとりお話を伺った。





小山遺跡 遺構配置図（「土気南遺跡群Ⅳ」より）

あすみが丘内だけでも30ヶ所以上、土気駅南側だけでも100ヶ所以上、緑区内では400ヶ所、千葉市内では1320ヶ所もの遺跡がある。地表近くで見つかった遺物は時代の浅い物だという。中世、いわゆる戦国時代の遺跡の下をさらに掘り進めると平安や奈良時代の遺跡があり、そして同じ場所をもっと掘り進めていくと縄文時代、それ以前の遺跡も見ついている。つまり、同じ場所から異なる時代の遺跡が見つかるということだ。見つかった遺物や遺構は、地層と照らしあわせながら時代を判別していくという。

小山遺跡とされている場所は現在のあすみが丘9丁目の住宅街の中にある。（千葉市遺跡地図参照）小山遺跡は約7800㎡、東西に150m南北に50mほどの敷地にたくさんの遺物や遺構が出土している。（遺構配置図参照）縄文時代早期には土器を伴う住居跡が2基出土しており、貴重な土器のようだ。その後、縄文時代前期の住居跡が10基あり、その住居跡からはいくつもの土器や土偶がみついている。また、土壌とよばれる落とし穴のようなものは62基も見ついている。その後の歴史時代の住居跡とみられる22基のうち、掘立柱建物跡が1基、柱穴がみられるものは5基も残っていた。その中では多くの土器もみついている。また、鉄滓（鉄を製錬する際に出る不純物）が残っていたため製鉄関連の工房跡と考えられる堅穴遺構が1基あるという。これらのことから、小山遺跡は、縄文時代、平安時代、中・近世の集落跡、また生産址とみられるという。資料を見ながら説明をしていただき、縄文時代からの長い間この地で人が集落を作り生活していたことがわかり驚いた。だが、肝心の小山城は？

この小山遺跡の敷地南側の尾根部に2ヶ所の遺構が

見つかっている。西側にあるものを西平場遺構（東西45m、南北16m）東側にあるものを東平場遺構（東西40m、南北6m）という。尾根部分をわざわざ平らにしており何らかの形で利用したものとみられるようだが、同じ場所からは遺物がみつからず、何のために利用したものかは定かではないという。「村田川の谷津を望む位置にあることから、戦いの際の見張りや隠れるための砦という見方もある」という。また、その地層が粘土質であることから粘土採掘とその作業場であった可能性もあるという。いずれにせよ、城と呼ぶほどの立派な遺構ではないらしいことはわかった。

ただ、ここで新たな疑問が生じた。あすみが丘内の山はきちんと遺跡調査が行われ、縄文時代と奈良・平安時代や室町時代以降の遺跡が見つかるが、その間の弥生時代が全くないのはなぜだろう。あすみが丘内のどの遺跡も弥生時代のものは見つかっていない。天変地異があり、人々が逃げてしまったのか、あるいはもっと生活しやすい場所に移ったのか。

縄文時代は狩猟や採取が主流であり、動物や木の实などが豊富な山での暮らしが中心であったのだろう。一方、弥生時代といえば米作りが広がった時代。小山町、板倉町などの谷津田は調査がなされていない。小山町の正式な記録が残るのは1600年以降ではあるが、千葉市遺跡地図でもわかるように、小山遺跡以外にも小山町内の山々には縄文時代からの遺跡がいくつもあり、人々が生活してきた証が残されている。その人々が山を下り、湧き水豊富な谷津田で米作りをしていたとしても不思議ではない。田んぼを耕していたら、世紀の発見につながる遺物など出てこないか…そんな妄想を抱きながら、田を耕す日々を過ごしている。



里山たんけんレポート

第 220 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2018年5月6日(日) 晴れ

生きものはたくさん出現してくれました。ニホンカワトンボ、シオヤトンボはたくさんいて、捕虫網で捕えて観察しました。甲虫、カメムシ、ガ、アブの仲間や、オトシブミ 3種の揺籃、毛虫、虫こぶなどいろいろ見所いっぱいでした。昨年見つけては抜いていたナガミヒナゲシは退治できたようでひとつも見かけませんでした。斜面林下の土水路を被さるように生えたサワフタギの花は終わっていましたが派手なシロシタホタルガの幼虫がたくさん見られました。道中、キビタキの囀りが複数箇所から聞こえましたが同一個体なのか、複数いるのか判りませんでした。繁殖してくれると嬉しいです。

(大名人 9名、中学生 1名、小学生 2名、報告・網代春男
写真・田中正彦)



第 220 回 下大和田 YPP 「田起こし」

2018年5月5日(土) 晴れ

コシヒカリを植える田んぼの田起こしをしました。田んぼに残したくない草は畦にあげ、まんのうや、鍬で稲の古株を返しました。古代米のドロ深い方の田は稲の古株を踏んで土に埋め込みました。午後からは苗床のトンネルカバーを外しました。4月7日に子ども達が播いてくれた種籾は立派に育っていました。

最後に谷津田運動会「竹持ち」競争ではみんなドロしぶきを上げて奮闘しました。お父さんと 2人の娘さんのチームが圧倒的強さを見せ優勝しました。

(参加 大人 40名、小学生 28名、幼児 7名
報告・網代春男 写真・田中正彦)



第 221 回 下大和田 YPP 「田植え」

2018年5月12日(土) 晴れ

新たな参加者の方もあり総勢 100名を超える人が一斉に田んぼに入って田植えをしました。コシヒカリ田は家族単位で子ども達も一所懸命田植えをしてくれ順調に植え終わりました。古代米の方の田はドロ深くて子ども達は入れないので、大人で緑米、赤米、黒米の田植えをしました。大人が田植えをしている間、子ども達はゲーム「だんごころころ」レースで楽しんだり、午後は谷津田探検で遊んでもらいました。学校の運動会で参加出来なかった家族の方のため 13日にも田植えを行い 5家族が参加し、田植えは終了しました。

(参加 12日 大人 52名、小学生 31名、幼児 18名
13日 大人 10名、中学生 1名、小学生 4名、
幼児 2名 報告 網代春男・写真 田中由希子)



第 156 回 小山町 YPP「コシヒカリの田植え」

2018年5月26日(土) 曇り

今、どこの田んぼも草の勢いが旺盛です。小山町の東にある一番広い田んぼ、あかがえる田んぼ(No.191 参照)は、広い分、どこよりも草がにぎやかです。作業は男女二組にわかれ、男性組は手強い葎やつる草と奮闘し、女性組は元気に育った苗を丁寧に手植えしました。間近で囀るウグイスの美しい声を聴きながら、穏やかで和やかな田植えでした。

(参加 大人 5名 報告・写真 稲富理枝)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 5月6日 シオヤトンボ、オオイトトンボ、シオカラトンボ確認。(たんぼぼ)
5月10日 ここ3日、最高気温、20℃以下。大椎田植え、オオヨシキリの声。(たんぼぼ)
5月13日 アカガエルの子ガエルがあちこち上陸、子ホトケドジョウ確認、コムスジチョウ飛来。(赤シャツおやし)
5月29日 シジウカラが数羽、葦の間を飛び、ウグイス、ホトトギス、ホオジロ、コジユケイの声。(たんぼぼ)

下大和田

- 5月7日 オオヨシキリがヨシ原に来て囀る、今季初。(網代)
5月15日 卵の花(ウツギ)咲く。(網代)
5月17日 ガマズミ咲く。(網代)

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(Tel&Fax: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

- ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第222回下大和田 YPP「田の草取り」・第223回「田の草取り」

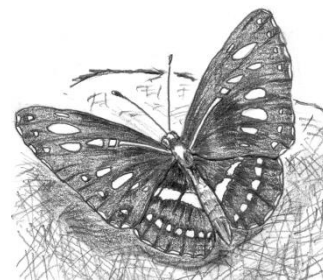
次から次と田の中に生えてきて稲の生育を妨げる草を取ります。

- 日時: 2018年6月9日(土) 9時45分~15時 ☆小雨決行
2018年7月7日(土) 9時45分~14時 ☆小雨決行
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。)
集合: 現地。初めて参加する方は駐車場や会場をご案内しますので事前に網代(あじろ)090-2301-0413までご連絡ください。
交通: JR千葉駅10番東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで中野操車場バス停下車、徒歩5分で現地。<千葉駅発8:25、8:40など、所要時間45分>料金は540円。
持ち物: 弁当、飲み物、帽子、軍手、着替え、田んぼ用長靴、敷物など。
参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料
主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼里山くらぶ 森と水辺の手入れ

ホダ木(きのこ)の本伏せを行います。

- 日時: 2018年6月17日(日) 9時45分~14時 ☆小雨決行
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)
集合: 現地9時45分 初めて参加の方はご連絡ください。(同上)
持ち物: 弁当、飲み物、帽子、軍手、長靴、長袖長ズボンの服装、敷物など
参加費: 100円(小学生以上、資料代など)
主催: ちば環境情報センター



画 赤シャツおやし

▼第222回下大和田谷津田観察観察会とゴミ拾い

シュレーゲルアオガエルが林縁でたくさん見られる頃です。カブトムシやクワガタムシも現れる頃です。

- 日時: 2018年7月1日(日) 9時45分~12時 ☆雨天決行
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)
集合: 現地9時45分 初めて参加の方はご連絡ください。(同上)
持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など
参加費: 100円(小学生以上、資料代など)
主催: ちば・谷津田フォーラム、ちば環境情報センター

▼第157回 小山町 YPP「古代米の田植え」

苗代で育った古代米の田植えをします。

- 日時: 2018年6月16日(土) 10時~12時30分 ☆小雨決行
場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)
持ち物: 飲み物、長靴(長めのもの)、帽子、軍手、敷物。
参加費: 100円(小学生以上、資料代など)
主催: ちば環境情報センター

■編集後記 5月、田植えの季節スタートです。季節外れの低温もあり、苗代の苗たちの育ち具合が気がかりです。さらに、地元の方々の暖かな眼差しと裏技を頂き、すくすくと生長中!!! (赤シャツおやし)